

伝統的工法で壮大な姿を再現

# よみがえりゆく 白河のシンボル

小峰城の石垣修復は、現在、石材の撤去作業が終了し、いよいよ本格的な工事が始まります。  
今月号では、これまでシリーズでお知らせしている「小峰城石垣再生への歩み」の拡大版として、小峰城の「今」をお知らせします。

本庁舎文化財課  
☎2310



①最も被害が大きかった本丸南面石垣  
②石垣の背面に用いたコンクリートが倒れた姿（本丸南面）  
③樹木とともに石垣が崩れた竹之丸南面

## 石材の撤去作業・調査が終了 崩落の原因が明らかに

東日本大震災で崩落した石垣の撤去作業は、平成24年3月から今年の9月まで、約1年6か月の月日をかけて行われました。崩落箇所は全部で10か所。幅の合計は160m、面積は約1,500㎡で、撤去した石材の数は約7,000個にも及びました。

撤去した石材は、1個ずつ大きさや加工の特徴、再利用が可能かどうかの観察を行い「石材カルテ」にまとめました。また、崩落の原因を検証した結果、本丸南面の大規模な崩落は、昭和の時代に行われた**現代工法**での修復工事の際、石垣の背面をコンクリートで固めたことが大きな原因であったことが分かりました。

## 国史跡で伝統的工法が可能に 壮大な姿を未来まで残す

本市のシンボル「小峰城跡」は平成22年8月5日に**国史跡指定**を受けました。これにより今回の修復は、文化財災害復旧事業として国（文化庁）の補助を受け、歴史的価値を損なうことのない**伝統的工法**での工事が可能になりました。

約400年前に、白河藩初代藩主の丹羽長重が築いた石垣。その壮大な姿をよみがえらせ、はるか未来まで存続させるためには、先人の知恵に倣った伝統的工法での修復が欠かせません。震災のわずか7か月前に国の史跡指定を受けていたことが、とても大きな意味を持つことになりました。

## 三重櫓の一般開放を最優先 経路上の石垣や門を修復

修復は、**清水門**・**前御門**・**本丸**・**三重櫓**までを開放できるようにするため、その経路上に存在する清水門・本丸南面・前御門・三重櫓の修復を最優先に行います。そのほかの崩落箇所については、継続して修復を進め徐々に開放範囲を広げていく予定です。

また、園路や照明などの整備を行うとともに、景観の阻害や、石垣に悪影響を与えている樹木なども整理していきます。



①清水門  
②前御門  
③三重櫓

## 本格的な修復工事を開始 貴重な作業の様子を公開

10月21日に、小峰城清水門前で安全祈願祭を行い、いよいよ本格的な作業に取り掛かります。まずは、本丸南面石垣（1工区）を修復していきます。

石垣が構築される姿は、なかなか目にする事ができない貴重な機会です。その姿を多くの方が目にし、小峰城の歴史をさらに知ってもらえるよう、これまでも同じく見学会を開催し、修復の状況を公開していきます。

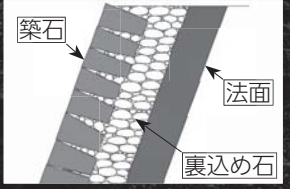


約250人が参加した昨年の見学会

## キーワード

### ▶ 伝統的工法

伝統的工法で積む石垣は、**築石**（表面を飾る石）と**築石**の背後に詰められた**裏込め石**（背後の法面と築石との間に詰める石）で成り立っています。裏込め石は、排水やクッションとしての役割を果たします。今回のような地震の場合は、ほどよく力を分散させるものと考えられます。



### ▶ 現代工法

現代工法は、裏込め石の代わりにコンクリートを使用します。築石を固定するため安定しているように見えますが、地震の場合は揺れを面として直接受け、大きな被害に結びつくことがあります。小峰城石垣の場合、本丸南面にコンクリートが用いられていました。これが面として地震の揺れを受け、壁が一瞬にして前方に倒れたと考えられます。

### ▶ 国の史跡指定

国の史跡指定とは、貝塚・古墳・城跡・旧宅などの遺跡の中で、日本の国にとって歴史上または学術上価値が高いため、保護が必要なものについて、文化審議会の審議を経て、文部科学大臣によって指定された遺跡のことです。

### ▶ 清水門

二の丸と本丸をつなぐ重要な門。



### ▶ 前御門

本丸の表門。史料に忠実に木造で復元されました（平成6年）。



### ▶ 本丸・三重櫓

本丸は「本丸御殿」があった場所です。三重櫓は史料に忠実に木造で復元されました（平成3年）。

